

topics

青天の霹靂  
刈り始め

01

9月13日から、ライスロマンクラブの稲刈りが東部班から始まった。

今年の田植えは、牡丹斑から始めたが、管内の登熟状況を踏まえ、生育の早い東部班から稲刈りを行った。

佐藤喜久男組合長は、「今年は圃場の足場が良く、順調に作業が進んだ。今年も多くの人に相馬産米を食べてもらいたい」と話していた。



黄金色の田んぼをコンバインが駆け回る

topics

職員が  
スピード選果に協力

02

9月6日から当JA職員によるリンゴ詰め作業応援が始まった。

初日は「つがる」が選果され、汗を流しながらダンボールやイフコンテナなどにりんごを詰めていった。

作業した職員らは「この作業をりんごの選果が終わるまで行うのは大変な作業だ。毎年入庫されたりんごを選果する作業員や作業応援に来てくれる大学生のおかげで選果が進んでいるんだと感じた」と感想を述べていた。



リンゴ詰め作業に奮闘する職員

topics

適期収穫を呼び掛ける

03

9月17日、中南地域県民局地域農林水産部は、坂市地区の三浦均さんのりんご園地にて適期収穫キャラバンを行った。

呼びかけを行った園地には収穫間近の「トキ」があり、県民局職員は黄色品種のカラーチャートを手渡して適期収穫をお願いしていた。三浦さんは「消費者に最高のりんごを届けたい」と意気込んでいた。



カラーチャートを受取る三浦さん

topics

ベトナム向けりんご  
収穫前検査

04

9月22日、ベトナム向け輸出に係る中生種の収穫前の防疫官検査が行われた。検査には植物防疫官の検査員と農業振興課員2名の計3名で、10人の生産者の園地を回り、病害虫の有無や正しく袋がかかっているか等の検査を行っていた。

輸出を行う生産者は「安心安全なものを届けるのはもちろんの事、そのための農場管理をしっかりとしたい」と話していた。



防疫官が隅々確認し、輸出に備える

## 今年も一等米格付け

05

9月28日、ライスセンター倉庫にて今年産米の初検査が行われ、大場勉組合長はじめ、ライスロマッククラブや全農あおもり関係者等が見守った。

大場組合長は「現在厳しい米情勢ではありますが、今後新設されるライスセンターの建設により管内の稲作を絶やさず、満足して利用して頂ける様に努めていきたいと思っています」と挨拶した。

その後行われた青木の霹靂の初検査では全量一等米に格付けされ、関係者は喜んでいました。



関係者が見守る中初検査が行われる

挨拶で  
地域を盛り上げよう

06

9月30日より、本所事務所入り口に弘前市立相馬小学校の児童3、4年生の児童12名の「あいさつ運動ポスター」が飾られている。

金賞を受賞した3年生の寺田大晟君は「金賞をとれると思ってなかったので受賞出来てとても嬉しい。みんなで作ったポスターで周りが明るくなつてほしい」と話していた。

このポスターは他に、御所温泉や星と森のロマントピアに飾られている。



ポスターは本所入口にて展示している

JALの援農ボランティアが  
今年も始まる

07

10月1日、大助地区の佐藤喜久男さんの園地にて日本航空株式会社のパイロットの有志らが葉取り作業に汗を流した。

JALの援農ボランティア作業は去年に引き続き行われ、10月11月上旬にかけて、少人数で行われる予定である。

今年も参加したこのJAL援農ボランティアの発起人である小山浩司副操縦士は「こうしてまた援農にすることが出来て嬉しい。作業を終えてみて、リンゴの事について多くの人達にも知ってもらいたいと感じた」と話していた。



葉取作業に夢中な初参加のJAL援農者

## 金融共済課からのお知らせ

いつも当JAをご利用頂き感謝申し上げます。

今年の年金友の会「相幸会」忘年会は、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、**開催中止**となりました。

また来年、会員の皆様にご会えることを心から楽しみにしています。

